

# 高知県における総合型地域スポーツクラブの運営の在り方

1180418 菅原 友奈

高知工科大学マネジメント学部

## 1. 概要

文部科学省によれば総合型地域スポーツクラブ（以下「総合型クラブ」という）とは、地域住民が主体的に地域のスポーツ環境を形成する「新しい公共」の実現を目指し、運動不足の解消による過剰医療費の抑制、学校の授業・部活動への支援を通じてコミュニティスクールへの発展に寄与できることが考えられ、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブである。身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、①子どもから高齢者まで（多世代）・②様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）・③初心者からトップレベルまで（多志向）という特色を持つ（同省 HP）。本稿ではまず、今後地域活性化に貢献するのではないかとされる総合型クラブについて、先行研究と資料に基づき高知県の総合型地域スポーツクラブの現状と課題を把握し、次にアンケート調査から因子分析を行い、成功要因を探り今後の総合型地域スポーツクラブの運営の在り方を分析検討したいと考える。

## 2. 背景

文科省は平成7年度から15年度まで、地域のコミュニティの役割を担うスポーツクラブづくりに向けた先導的なモデル事業として、地域住民の自主的な運営を目指す「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」を推進し、それ以降は日本体育協会が引き継いでいる。文科省の『第2期スポーツ基本計画』によれば、国民医療費は年間約40兆円に達しており、様々なスポーツによる医療費削減の取り組みや研究が行われている。例えば、新潟県見附市で行われた運動プログラムでは開始3年後のスポーツ実施者と非実施者の年間医療費を比較すると、一人当たり10万円の医療費が抑制されたとの調査結果もある。また、平成27年5月に発表された日本政策投資銀行「2020年を契機とした国内スポーツ産業の発展可能性および企業によるスポーツ支援」によれば日本のスポーツ市場規模は5.5兆円だが、2020年までに10兆円、2025年までに15兆円に拡大することを目指す施策目標を掲げている。しかし、スポーツ市場規模は平成14年当時の7兆円から平成24年時点で5.5兆円となっており減少傾向にあり、多くのス

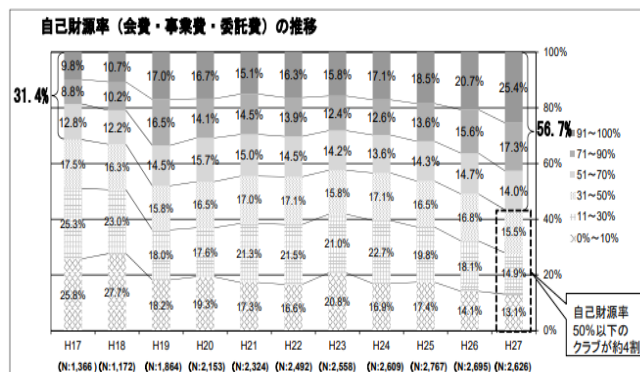


図1：総合型クラブの自己財源率

（出典：第2期スポーツ基本計画）

スポーツ団体においては特に経営・マネジメント人材や活動資金等の組織基盤が確立されているとは言い難く、組織が継続的に活動できる状況には至っていない。

総合型クラブは平成29年7月時点で、全国で3580クラブが運営もしくは運営準備されているという状態で、住民の健康促進や活力増進という側面から、地域活性化に大きく貢献している。一方で、全国では平成29年7月時点で廃止・統合等のクラブは235クラブあり、「廃止」が126クラブ、「他の総合型と統合」が81クラブ、「総合型クラブ以外のスポーツ団体に移行」が28クラブあり少なくない。その理由として会員数・財源の確保、指導者の確保・養成などが考えられる。『第2期スポーツ基本計画』による自己財源率に関しては図1の総合型クラブの自己財源率の推移からわかるように徐々に改善されているものの、未だ自己財源率50%以下のクラブが4割を占める現状がある。また、平成24年度の笹川スポーツ財団スポーツライフ・データ2012によると総合型地域スポーツクラブの認知度は31.4%であるが、研究をしている実感としては周りの知人の認知度は限りなくゼロに近い。

平成24年度総合型地域スポーツクラブ活動調査によると、平成24年度7月時点の高知県民数は約75万8000人、総合型地域スポーツクラブで活動している人数は8285人、割合として県民の1.1%である。高知県内の総合型地域スポーツクラブは平成29年7月時点で23市町村31クラブあり、高知県は少子高齢化による人口減が続くと予想され、クラブ数を増やすことは難しい。しかし、既存のクラブの会員数を増加



図2：総合型クラブの現状（高知県 平成29年7月現在）（出典：高知県文化生活スポーツ部スポーツ課）  
させることは可能であると考えられる。

### 3.目的

平成29年7月時点で高知県内の総合型クラブは31クラブ、総会員数は7726名である。(図1) 高知県内の総合型地域スポーツクラブの運営の在り方に着目し、各クラブマネジャーへのアンケート調査からクラブの設立に至った背景やどのような活動を目指していきたいかを把握し、総合型クラブが発展していくためにはどのようなことが重要なのかを示していく。また、施設利用者へのアンケート調査を因子分析し、利用者のニーズをデータから導き出し、クラブ運営に役立つ情報を提供できると考えている。

### 4.研究方法

まず、先行研究(坂本千明(2017))では高知県教育委員会健康スポーツ推進課でインタビューを行い、高知県内の総合型地域スポーツクラブで自立志向型の運営を目指し、比較的に成功しているクラブがNPO法人こうなんスポーツクラブ、NPO法人まほろば南国スポーツクラブ、NPO法人総合クラブとさ、土佐町Happinessスポーツクラブの4つのクラブであることがわかった。そして、こうなんスポーツクラブ、まほろばクラブ南国、総合クラブとさの3施設でヒアリング調査、アンケート調査を行い、高知県内の総合型クラブは自立志向型と補助金依存型に二極化し、自立志向型のクラブは法人格を持っているクラブと持っていないクラブに二極化し

ていることが分かっている。

本研究は、この研究を踏まえ高知県文化生活スポーツ部スポーツ課へのヒアリング調査を行った。高知県内全域の総合型地域スポーツクラブのクラブマネジャーへのアンケート調査による総合型地域スポーツクラブの運営の実態把握と、利用者へのアンケートから得られたデータをもとに因子分析を行い、年代や地域ごとの比較や、運営が上手くいっているクラブの特徴を分析する。

### 5.結果

#### 5.1 クラブマネジャー向けアンケート調査結果

高知県文化生活スポーツ部スポーツ課に協力していただき、県内で活動している総合型地域スポーツクラブにメールでクラブマネジャー向けのアンケートを送信していただき、受信する形をとった。その結果、事前にアンケートを頂いていたクラブも含め9クラブからの返信をいただいた。

先行研究(坂本千明(2017))『二極化する総合型地域スポーツクラブの現状と課題』を参考にアンケートを作成した。

(1) 母体組織、(2) 年間予算総額、(3) 法人格の取得の有無・理由、(4) これまでの活動や今後の活動について(5) 今後の課題の5つを質問項目に設定した。(1) 母体組織については町民運動会の実行委員会メンバーが中心となって発足したクラブ、市体育協会・スポーツ推進委員・NPOが協力して立ち上げたクラブ、ゼロから立ち上げたクラブ、町の教育委

員会が事務局となり、行政・体育会・老人クラブ・社会福祉協議会・NPO など地域活動団体をメンバーとした準備会から立ち上げたクラブ、NPO 法人のスポーツクラブから始まり、市より委託を受けたクラブなど、様々である。(2) 年間予算総額については指定管理委託料や、スポーツ振興委託料などをもっているクラブや、ボランティアの人が集まって運営を行っているクラブがあり、60 万円から 8250 万円まで大きく異なる。(3) 法人格の有無については 9 施設中 7 施設が持っており、理由としては指定管理をとり、運営資金を賄うためや、社会的信用・地位を確保する、職員雇用の安定などがあつた。(4) 今後の活動と動向については地区住民の参加と協力を得る、法人格取得の協議を行い収益安定につなげる、クラブ理念・事業方針を明確に地域社会と共に成長する、補助金に依存せず自立する、誰でも気軽にスポーツを、軽スポーツの普及でスポーツ人口を増やすなどがあつた。(5) 今後の課題については自主財源の確保が 4 つのクラブで挙がり、少子高齢化が進む中でいかに利用者のニーズに応え会員数を拡大していくか、指導者の確保、スタッフに若い世代の人を取り組んでいくといった意見があつた。

クラブ利用者への質問項目は、属性に性別、年代、職業、スポーツ種目、運動頻度を設定し、目的やニーズに対しての項目として①健康維持、②体力の維持・向上、③気分転換、④ストレス解消、⑤ダイエット、⑥リラクゼーション、⑦他人とのコミュニケーション、⑧護身、⑨記録更新・大会出場、⑩体を鍛える、⑪自らの達成感・満足、⑫リハビリ、⑬将来の夢、⑭地域活性化、⑮出合いの項目を、クラブ選択のポイ

ントについて①場所、②施設が新しい・きれい、③サークルの数、④専属指導者がいる、⑤友達がいる、⑥料金、⑦駐車場がある、⑧地域活性化⑨スタッフの反応が良い、⑩いろいろなスポーツができる、⑪自身の健康維持、⑫自身のストレス軽減、⑬家族の交流、⑭時間、⑮やりたいスポーツがあるの 15 項目を設定し、非常に意識している (5 点)、やや意識している (4 点)、どちらでもない (3 点)、あまり意識していない (2 点)、全く意識していない (1 点) の 5 段階による評価をしていただき、NPO 法人まほろばクラブ南国 (南国市) 52 名、NPO 法人こうなんスポーツクラブ (香南市) 44 名、NPO 法人総合クラブとさ (土佐市) 38 名、一般社団法人高知チャレンジドクラブ (高知市) 39 名、NPO 法人スポーツクラブスクラム (土佐清水市) 33 名、スポレクスくも (宿毛市) 29 名、NPO 法人くぼかわスポーツクラブ (四万十町) 8 名、7 施設の計 243 名の利用者の皆様にご協力いただき、アンケート結果を表 1 に示した。なお、利用者全体の傾向として女性が 7 割、60 代以上の方が半数を占めた。

表 1 から、まず健康維持の項目は 7 施設すべてで 4.1~4.5 と意識が高いことがわかる。また、記録更新・大会出場は 1.9~4.3 と施設によって意識の違いが大きい。同じく出合いの項目も 2.5~4.5 と施設によって意識の違いが大きいことがわかる。理由として考えられるのは、記録更新・大会出場については意識の低かったまほろばクラブでは様々な年代や種目をしている人たちにアンケートを行ったので記録更新・大会出場への意識はあまり高くなかったと考えられ、意識の高かったチャレンジドクラブでは大会に向けて取り組んでいる教室

項目	まほろば	とさ	こうなん	スクラム	すくも	チャレンジド	くぼかわ
健康維持	4.5	4.3	4.3	4.5	4.1	4.5	4.5
体力の向上	4.6	4.2	4.2	4.5	4	4.6	4.8
気分転換	4.4	4.2	4.2	4.6	3.8	4.5	4.1
ストレス解消	4.3	4	4	4.6	3.7	3.6	3.8
ダイエット	3.5	3.4	3.4	4.4	3.3	4	4.1
リラクゼーション	3.7	3.5	3.5	4.4	3.6	4.5	3.4
他人とのコミュニケーション	4.2	3.8	3.8	4.4	4	2.5	4
護身	1.9	3.3	3.3	3.2	2.9	2.9	2.4
記録更新・大会出場	1.9	3.2	3.2	3.7	2.2	4.3	2.3
体を鍛える	4	3.8	3.8	4.6	4.1	4.1	4.1
自らの達成感・満足	3.8	3.8	3.8	4.4	3.7	2.4	4
リハビリ	2.5	3.3	3.4	3.5	3	2.8	3.8
将来の夢	2.4	2.5	3.7	3.4	2.2	3.1	1.9
地域活性化	2.7	2.9	3.5	3.7	2.9	3.6	2.6
出合い	2.8	3.2	3.6	4.5	3.3	4.3	2.5

表 1 : 6 施設に対するアンケート項目と結果 (筆者作成)

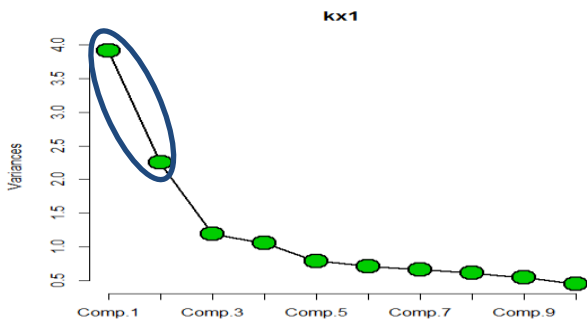


図 2: スクリープロットの結果 (3 施設)

でアンケートをとる機会が多かったためと考えられる。

### 5-2 3 施設の因子分析

次に、県内の総合型クラブでも活動が盛んなこうなんスポーツクラブ、まほろばクラブ南国、総合クラブとさの 3 施設の利用者計 134 名のアンケート調査を基に因子分析を行った。解析ソフトは js-star と R を使用した。なお、⑨記録更新・大会出場の項目はフロア効果、⑩体を鍛えるの項目は天井効果が出たため 2 つの項目を除外し 13 項目での因子分析を行った。今回は、図 2 のスクリープロットの結果より 2 因子解を適当とし、因子の抽出方法は最尤法、バリマックス回転

(varimax:カイザーの正規化)、因子負荷量は表 2 の通りである。因子負荷量の絶対値 0.40 は中程度の強さの相関を示すとされ、今回は 0.50 以上を示した項目をもとに因子を解釈した。

	F1	F2	共通性
x1	0.568	0.124	0.338
x2	0.548	0.037	0.301
x3	0.76	0.005	0.578
x4	0.731	0.098	0.544
x5	0.533	0.041	0.286
x6	0.639	0.093	0.417
x7	0.367	0.272	0.209
x8	-0.04	0.536	0.289
x11	0.408	0.382	0.313
x12	0.219	0.42	0.225
x13	0.028	0.594	0.353
x14	0.134	0.814	0.68
x15	0.077	0.679	0.467
説明分散	2.803	2.197	NA
寄与率	0.216	0.169	NA
累積比率	0.216	0.385	NA

表 2: 因子負荷量 (3 施設・筆者作成)

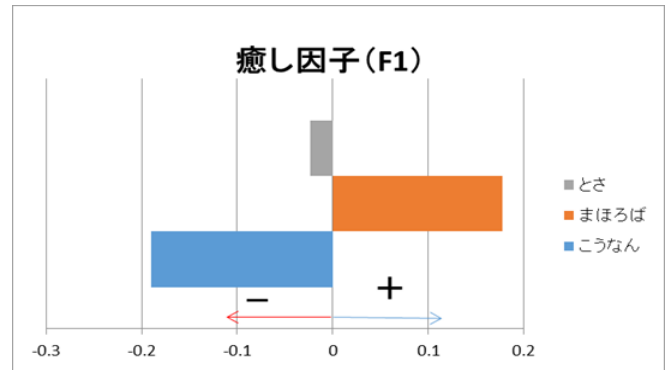


図 3: F1 の 3 施設に対する相関 (筆者作成)

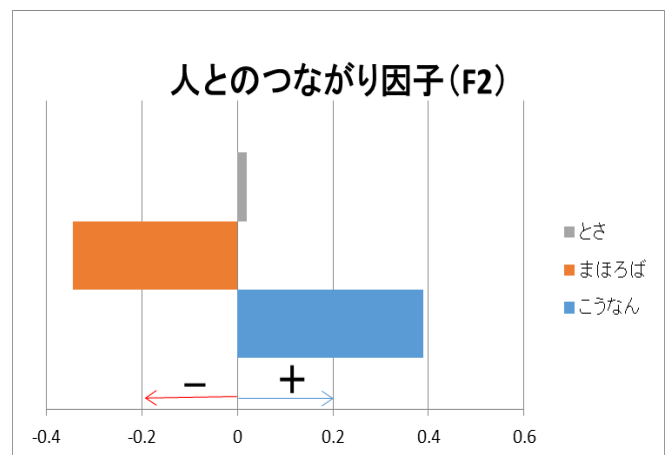


図 4: F2 因子の 3 施設に対する相関 (筆者作成)

### 5-3 解釈 (3 施設)

表 2 より、F1 因子は③気分転換、④ストレス解消、⑥リラクゼーションの値が特に高かったため「癒し因子」と名付け、F2 因子は⑭地域活性化、⑮出会い項目の値が高く「人とのつながり因子」と名付けた。F1 因子の 3 施設ごとの違いを示したものが図 3、F2 因子の施設ごとの違いを示したものが図 4 である。予測では、まほろばクラブは比較的新しいクラブであり、人とのつながり因子より癒し因子を重視し、クラブとさでは設立当初から自立型思考が強く、地域に根付いた活動を重視し、こうなんスポーツクラブは県内で最初にできた総合型クラブであることや、高齢者の利用が多いこと、教室をつくる際、考案者自身が教室の参加者を集める特色があることから人とのつながり因子が強いと考えた。結果は、図 3 より「癒し因子 (F1)」についてはまほろばクラブで最も重視されており、こうなんクラブでは 3 施設の中では最も重視されていない。クラブとさは 2 施設の間である。また、図 4 より「人とのつながり因子 (F2)」についてはこうなんクラブが最も重視されており、まほろばクラブでは最も重視されていない。クラブとさは 2 施設の間である。まほろばクラ

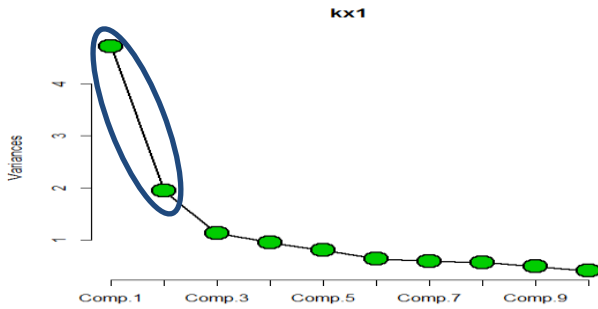


図 5：スクリープロットの結果（7施設）

ブは予測通り癒し因子が強く、こうなんクラブも予測通り人とのつながり因子が強かった。クラブとさは予測と違い、人とのつながり因子があまり高い値を示さなかったが、クラブとさのクラブマネジャーの方のお話を伺うと、もともと仲良しのグループで教室が開かれているため、若い新しく来る人を受け入れる環境が整っていないという問題点があることがわかり、そのような背景から今回の結果になったと考えられる。

#### 5-4 7施設の因子分析

次に、7施設 243名のアンケート結果を基に因子分析を行った。なお、3施設の因子分析と同じく⑨記録更新・大会出場の項目はフロア効果、⑩体を鍛えるの項目は天井効果が出たため2つの項目を除外し13項目での因子分析を行い、図5のスクリープロットの結果より2因子解を適当とした。表3は因子負荷量を示し、今回は0.50以上を示した項目をもとに因子を解釈した。

	F1	F2	共通性
x1	0.563	0.198	0.356
x2	0.527	0.144	0.298
x3	0.88	0.056	0.778
x4	0.867	0.11	0.765
x5	0.501	0.209	0.294
x6	0.648	0.223	0.469
x7	0.466	0.25	0.28
x8	0.079	0.541	0.299
x11	0.298	0.401	0.25
x12	0.198	0.447	0.239
x13	0.126	0.605	0.382
x14	0.203	0.815	0.706
x15	0.149	0.634	0.425
説明分散	3.222	2.317	NA
寄与率	0.248	0.178	NA
累積比率	0.248	0.426	NA

表 3：因子負荷量（7施設・筆者作成）

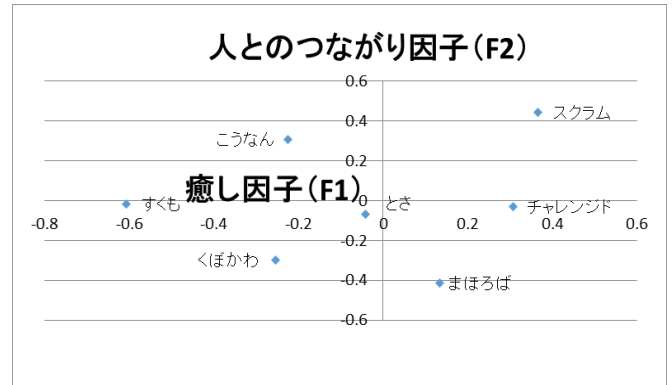


図 6：7施設の散布図（筆者作成）

#### 5-5 解釈（7施設）

表3の因子負荷量より、F1因子は③気分転換、④ストレス解消の項目の値が特に高く「気分転換因子」、F2因子は⑭地域活性化、⑮出会うの項目の値が特に高く、「人とのつながり因子」とした。そして、7施設を対象にした縦軸F2因子、横軸F1因子の散布図を図6に示した。その結果、7施設が分散し、F1・F2因子ともプラス値になったのがスクラム、F1がプラス値・F2がマイナス値になったのがまほろばとチャレンジド、F1・F2因子ともマイナス値になったのがくぼかわ・とさ・すくも、F1がマイナス値・F2がプラス値になったのがこうなんであった。また、癒し因子（F1）がプラス値になったクラブはスクラム・こうなんの2クラブ、人とのつながり因子（F2）がプラス値になったクラブはスクラム・チャレンジド・まほろばの3クラブであった。この散布図からわかることはまず、7施設が分散していることからクラブによって利用者のニーズや求められてくる活動が異なることがわかる。また、人とのつながり因子がプラス値になった2クラブは、クラブの在り方が明確で利用者主体の市民参加型を強く意識して活動しているクラブであることがわかった。癒し因子がプラス値になったクラブは、2施設は実際に訪れ1施設はHPを拝見し、施設の外観がきれいであることや、設備も新しいものを取り入れる工夫がされており、そういった部分から癒し因子が高い値になったのではないかと推測した。

## 6. 対策と提案

高知県文化生活スポーツ部スポーツ課の総合型地域スポーツクラブ担当者へのヒアリング調査や、いくつかのクラブのクラブマネジャーへのヒアリング調査を通しクラブマネジャーの情熱や人としての魅力などがクラブ運営にも大きく関与しているように思えた。また、市町村や高知県などの行政との関係性や理解もクラブ運営にあたっては非常に重要である。

クラブマネジャーはスポーツがわかるだけでなく、文書業務や、様々な人物とのコミュニケーション能力など多くの能力が求められることがわかった。しかし、現状としてボランティアや市町村の職員が他の仕事と掛け持ちしながら運営しているクラブが非常に多く、クラブ運営に多くの時間が設けられず、満足のいく活動がしにくい環境にある。高いスキルが求められるのに専属のクラブマネジャーが少ない理由として、財政が厳しくクラブ従事者に労働に見合う十分な給与を配給できないこと、ボランティアが当たり前になっているという背景があると考えられる。そのため、総合型クラブの活動を積極的に行い、様々な人に活動を発信することで認知してもらい活動を認めてもらう努力や、スポーツ従事者達自身の認識も変えていくことが必要である。また、比較的運営がうまくいっているクラブでも、クラブの形はそれぞれであり、いかに地域に根付いた活動を行い地域住民のニーズに応じていくことが大切であるのかがわかった。

## 7. 今後の課題

本研究では因子分析をするにあたって最低、質問項目の3倍はアンケートを集めるよう努めたが、結果的に施設によって人数にバラつきが出たので、各クラブ同じ年代や種目の人からデータをとることが今後の課題である。また、比較的運営がうまくいっているクラブとそうでないクラブの比較をしたいと考えていたが、運営がうまくいっていないクラブでのアンケート調査を集めること自体が難しく、運営がうまくいっていないクラブ運営者からのヒアリング調査や、他のクラブのクラブマネジャーの意見を聞くなどをして実態を明らかにしたいと考えている。

## 8. 謝辞

最後に本研究を進めるにあたり、資料を提供してくださった坂本千明様、ヒアリングへの協力や資料を提供してくださった高知県文化生活スポーツ部スポーツ課の山地様、アンケートに快く回答してくださった高知県内の総合型地域スポーツクラブのクラブマネジャーの方々、クラブ利用者の皆様に深く感謝申し上げます。

## 引用文献

- [1]坂本千明「二極化する総合型地域スポーツクラブの現状と課題」(2016年度 高知工科大学卒業論文)
- [2]黒川祐光「総合型地域スポーツクラブの自立運営に関する一考察」『地域活性化研究』pp.203-212,(2015)

[3]高知県庁 HP および文科省 HP

[4]高知県教育委員会スポーツ健康教育課提供資料 (2018)

[5] 第2期スポーツ基本計画 文部科学省 pp48

[6]高知県文化生活スポーツ部スポーツ課提供資料

[7]菅原友奈、桂信太郎、井形元彦、坂本千明「二極化する総合型地域スポーツクラブにおける因子分析によるニーズ調査」2016年9月 地域活性化学会

# 付録

## 目次

### A1. アンケート調査票

A1.1 クラブ利用者向けアンケート調査

A1.2 クラブマネージャー向けアンケート調査

### A1.1 クラブ利用者向けアンケート調査

アンケート調査においては、以下の調査票を用いた。

#### (1) 属性

- ①性別 1.男性 2.女性
- ②年代 1.～9歳 2.10代 3.30代 4.40代 5.50代  
6.60代 7.70代 8.80代 9.90代
- ③職業 1.学生 2.事務職 3.営業職 4.農業 5.主婦  
6.公務員 7.無職 8.その他
- ④スポーツ種目 1.テニス 2.卓球 3.バドミントン  
4.サッカー 5.フットサル 6.バスケットボール 7.バレー  
ボール 8.野球 9.スイミング 10.武道 11.ヨガ  
12.その他
- ⑤運動頻度 1.週4回以上 2.週2～3回 3.週1回  
4.月に1～3回 5.2,3ヶ月に1日以下

#### (2) クラブを利用する目的

- ①健康維持
- ②体力の維持・向上
- ③気分転換
- ④ストレス解消
- ⑤ダイエット
- ⑥リラクゼーション
- ⑦他人とのコミュニケーション
- ⑧護身
- ⑨記録更新・大会出場
- ⑩体を鍛える
- ⑪自らの達成感・満足
- ⑫リハビリ
- ⑬将来の夢
- ⑭地域活性化
- ⑮出会い

#### (3) クラブを利用するポイント

- ①場所
- ②施設がきれい・新しい
- ③サークルの数
- ④専属利用者がいる
- ⑤友達がいる
- ⑥料金

- ⑦駐車場がある
- ⑧地域活性化
- ⑨スタッフの対応が良い
- ⑩いろいろなスポーツができる
- ⑪自身の健康維持
- ⑫自身のストレス軽減
- ⑬家族の交流
- ⑭時間
- ⑮やりたいスポーツがある

### A1.2 クラブマネージャー向けアンケート調査

- (1) 設立時の母体組織について
- (2) 年間予算の総額
- (3) 法人格の取得の有無、その理由
- (4) これまでの総合型クラブの活動や今後の活動について
- (5) クラブの今後の課題